

2024. 11. 24 日 出水市中央公民館 小ホール 開催レポート

開会 13:30 閉会 16:30 参加者数 146人

主催



鹿児島県

「ジェンダーギャップの解消」に向けては、持続的な社会の気運に繋げていくための基盤として、一人ひとりにより身近な地域の中で、男女共同参画・ジェンダー平等について、地域の人々が共に考える「場」をつくる取組が求められており、鹿児島県では、昨年度から「男女共同参画・ジェンダー平等 地域MINNA会議」を開催しています。今年度は、出水市と天城町で開催しました。案内役・ワークショップのファシリテーターを務めた高崎のメモをもとにした事業のご報告です！

執筆：高崎恵

講演 こんどどこにジェンダーが!? ～日常のモヤモヤから考える男女平等のこと～

講師：清田隆之さん（文筆業・「桃山商事」代表）

1980年東京都生まれ。文筆業、桃山商事代表。早稲田大学第一文学部卒業。ジェンダー、恋愛、人間関係、カルチャーなどをテーマに様々な媒体で執筆。朝日新聞beの人生相談「悩みのつぼ」では回答者を務める。女子美術大学非常勤講師。



日常のモヤモヤの背景にある社会構造

▶学生時代に恋愛相談を受ける中で、男性の困った言動を聞く機会が多くあって、男性というものがそうだからというわけではなく、そういうシチュエーションが発生しやすい社会の在り方があり、バラバラに聞く人の話の背景にあるのはジェンダーなんだ！と気がついた。▶意識して眺めてみると、無意識の装置があり、いつの間にか身につけてきた男らしさがあった。▶私たちが、低解像度の感情をクリアにしていく作業として「おしゃべり」って大事で、体験を共有して、問題を発見していく、個人の問題と社会の問題を往復しながら話していくことが、大切なことなのでは、と思っている。



取組発表

男女共同参画地域推進員と出水市の協働による取組

発表者：鹿児島県男女共同参画地域推進員・出水市男女共同参画担当者

「そこにいるだけでいい！～男女共同参画地域推進員の役割とやりがい～」

▶出水市では知事が委嘱した4名の地域推進員が活動中▶月1回程度の打ち合わせを実施し、市の男女共同参画に関する広報誌「でざいんいずみ」の内容検討や日常で感じた男女共同参画に関する疑問、今世間で起きていることへの思いや解釈について共有している。▶女性に対する暴力をなくす運動期間には、オリジナルの啓発カードを作成し産業祭で配布。受け取った方から「大切なことですね」という声をかけられ、やりがいを実感。▶子どもの頃からの学びが大切という思いから出前講座の実施を中学校に提案、実施に至り、現在までに6896人の子ども・教職員・保護者が受講▶大きなイベントをするのではなく、地域、家庭、職場など、日常の様々な場面に、男女共同参画を学んだ私たちが「そこにいるだけでいい」という言葉を大切に活動を続けていきたいと思っている。

対話ワークショップ

男女共同参画・ジェンダー平等～地域MINNA会議

～聴こう！話そう！考えよう！わたしたちからはじまるジェンダー平等～

モヤモヤすること、いろいろあります！

講演、取組発表を聞いたあと、近くにいる人と対話し、3つのグループが話したことを共有してくださいました。

講演で、メディアの中で繰り返される景色という言葉がありましたが、メディアが「女性初」とか「女性〇〇」という表現をよく使うことに、とてもモヤモヤしています。

最近、とある施設に行ったら赤と青のスリッパが用意してあり「性別にあった色を履いて下さい」との但書があり「え？」と思いました。こんな時、どう伝えるか考えたいと思います。

最近、X(SNS)で盆正月に九州の夫の実家に帰った時のストレスあるあるが話題になっていて、それあるよね～とグループで対話ができました。一つひとつは異なる経験でも、悩みに共通しているジェンダーに関心がある人と話せてよかったです。

参加者の

アンケートより

今までジェンダーについて意識することがなく、遠い存在でありましたが、身近なところにジェンダーの課題が存在しているんだと感じました。

自由に意見の交流ができ、周りの方の「もやもや」を知り、自分の理解も深まりました。

様々な世代、ジェンダーの悩みを持った人たちが話せる機会がいかに大切かわかりました。ただ話すだけでも意識が変わると思いました。

今回学んだことを、まずは友人や家族に話していくことから始めて少しずつ取組を進めていきたいです。

「ジェンダーギャップの解消」に向けては、持続的な社会の気運に繋げていくための基盤として、一人ひとりにより身近な地域の中で、男女共同参画・ジェンダー平等について、地域の人々が共に考える「場」をつくる取組が求められており、鹿児島県では、昨年度から「男女共同参画・ジェンダー平等 地域MINNA会議」を開催しています。今年度は、出水市と天城町で開催しました。案内役・ワークショップのファシリテーターを務めた高崎のメモをもとにした事業のご報告です！

執筆：高崎恵

オリジナル落語 PTA会長への道

きのうゆうじさん（奄美市在住・アマチュア落語愛好家）

学生時代から演芸好きで、落語や漫才に触れる。旧・名瀬市役所入庁後、余興として自分でも演じてみたことが始まりで、現在に至る。平成3年 旧・名瀬市役所入職／平成18年 合併に伴い奄美市役所勤務／令和5年4月より奄美市商工観光情報部商工政策課長

当たり前？ そう言われてみればなんでだろう…

▶きのうゆうじさんと、初めて一緒したのは2020年奄美市の事業で、その時初披露されたオリジナル落語が「PTA会長への道」です。この落語で県内の市町村行脚をお願いしたいと思っているので、ここではネタバレにならぬ程度に内容を共有します。▶主人公は全く家事・育児をしない夫。妻に「少しはやってよ」と言われ、やらない/やれない理由を重ねるのですが、それがとっても狡猾で…。家事も育児もしないなら、PTAに行ってきた！と妻に言われ嫌々行ったPTAで…。▶まくら・本題・落ちに一貫する「そう言われてみればなんでだろう」に、アルアル！モヤモヤ！後の対話が盛り上がる落語です！



天城町、ジェンダー平等への道

今年10月、「ジェンダー平等推進のまち あまぎ」を宣言した天城町！それぞれの立場で取組を進める、町長×町担当職員×県男女共同参画地域推進員×県男女共同参画局長によるパネルトーク

意識は好転しているが、実態は…

▶県全体の課題として、性別による固定的な役割分担意識を否定する人の割合が高くなっているが、実態は、家事を主に担っているのは女性という状況があることなど、県、天城町のデータが示され、意識は好転しているが実態が変わっていない状況やその背景等が、町長、町担当職員、地域推進員それぞれの立場から話された。▶管理職の女性割合、男性の育休取得、DVの状況等々、データを見ると本当になんとかしないといけないという思いがあり、それぞれの場所でどう取り組んでいくかが問われる。▶天城町では課題を踏まえて研修を進め、多様化する課題に的確に対応し、政策に多様な視点を取り入れていくためにジェンダー平等を進める。

▶「ジェンダー平等推進のまち あまぎ」宣言はコチラ

<https://www.town.amagi.lg.jp/docs/3381.html>


対話ワークショップ

男女共同参画・ジェンダー平等～地域MINNA会議

～聴こう！話そう！考えよう！わたしたちからはじまるジェンダー平等～

落語にアルアル！宣言を機に私たちは…

オリジナル落語、パネルトークを聞いたあと、近くにいる人と対話し、3つのグループが話したことを共有してくださいました。

性別に関係なく、その人、その人の個性に合った役割分担をしていきたいね！と話しました。学校の中では男女混合名簿です。ランドセルの色も性別に関わりなくいろいろです！

落語は本当にアルアルでした！20～40代の女性のグループで話して、初めのうちは、男性に理解して欲しいねって話していましたが、いや待てよそれでは対立の構図になってしまうよねと気づき、対話していい！と話しました。

男性／女性、性別に関するアンコンシャス・バイアスが自分の中にあるなと話しました。パッとみて、パッと思い込んでしまうことが性別に関してありますが、物事の本質を見て、その人の人権を考えていこうね！とみんなで話しました。

参加者の
アンケートより

町の取組の一端を知ることができました。特に町長による町役場の取組について具体例を示されたのが良かったです。今後いろいろな活動を通して町民の意識改革に少しでも繋がればと思います。

いろいろな年代の方と話すことができて理解が深まりました。一人ひとりが自分らしく生きられる社会になるといいと思います。

性別による固定的役割については、否定の方が多い一方で、実態が追いついていないことが分かり、勉強になりました。

自分も妻に頼っている家事、育児等が多くあることに気づきました。